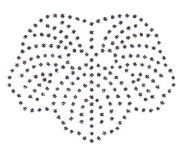


「リョウマ伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



リョウマ伝

40号

2023年02月26日
高野 竜馬

「雪の中の滝行」

2月26日、雪積もる富士で「滝行」をしてきた高野です。

なんでもまた冬に滝行かというところの回りの経営者は「禊」そしている人が多く、その方たちは一様にお顔が柔和なことと、気がついたのです。とは言っても冷たい水を朝から浴びる気はしません。

「不機嫌な〇〇の営業マンに新しい契約のチャンスなんてあるんですか?」「日々上機嫌で生きているだけで運は貯まります」という言葉に衝撃を受けます。決めました。あの柔和な顔を手に入れよう。て。今回、富士山の麓で滝行にチャレンジしたのは、私を含めて13名。

前日に雪が積もった真、白な広場を抜けて滝場へ、ふんどし一丁で歩いて向かいます。その日は晴天で無風、足はちぎれそうに痛いけど、身体はほかほか。入念に乾布摩擦して入ります。滝つぼに、みぞおちまで水につかると震えが止まりません。「ブルブル」という表現がぴったりです。13人が基本2回ずつ滝に入るのですが、その待ち時間が辛いものなの。

みんな震えて唇は紫。面白いことに目の回りも紫ではありませんか! 回りを見ながら、俺も面白い色になってるんだらうか? と妙なことを考えます。そして「命の元である水に値えて感謝いたします。この清き尊き水によって心身を洗い浄めます。なんて祝詞を唱えながら、滝

に入っていくのです。滝に打たれる行為はさほど苦しいものではなく、脱力していると思議な一体感を覚えます。問題は滝つぼで、じっとしている時の震え。でも回りをよく見ると先生は震えていません。なかば破れかぶりので浮かんだのが次の言葉です。

「私は寒さを受け入れます!」心の中で呟くと、不思議なことには、夕々と震えが止まるのです。それでも未熟な私は、しばらくすると震え始めます。そこでまた呟くと震えが止まります。そうや、て人体実験を楽してみました。なんと私は3回も滝に入りすっかりハイテンションになりました。

この滝行のため、1/20大寒から始めた禊練習は研修後の今も続けています。富士山から帰ったら、もう寒くはないだろうと思っ、ていますが、それは幻想でした。

今も寒いのです。

それで変化は? というところ...。水を浴びた直後に尖顔が出せるようになったこと。禊後、タオルを顔につけた瞬間に幸せを感じることに、着替え後、ほんわりと感じる温かさに下着への感謝の念が芽生えることでしょうか。

今のところ、この程度です。でも、いつまでもタダのハゲとは思わなくてくださいよ。そのうち私の頭から後光が差しますから(笑)。

ご期待ください。



たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
☎090-3407-2123
<https://www.takanozaikei.com> x-l fp.takano@gmail.com